

2021年3月29日

三菱ガス化学株式会社

温室効果ガス排出削減長期目標の設定について

三菱ガス化学株式会社（本社：東京都千代田区、社長：藤井 政志、以下、当社）は、2050年カーボンニュートラル達成に向け、温室効果ガス（GHG）の排出削減長期目標※¹を設定いたしましたのでお知らせいたします。

2023年目標：2013年度比 28%削減

2030年目標：2013年度比 36%削減

2050年目標：カーボンニュートラル達成

当社グループはグループビジョン『社会と分かち合える価値の創造』の下、昨年 CSR 重要課題（マテリアリティ）を特定しました（<https://www.mgc.co.jp/csr/materiality.html>）。当社のマテリアリティのうち気候変動問題は「エネルギー・気候変動問題解決（価値の創造:CSV）」、「環境問題の能動的、積極的対応（価値創造と環境保全との調和:E）」等、複数の要素として挙げており、この解決は当社の重要な経営課題と認識しております。

2050年カーボンニュートラル達成に向けて、当社が策定した GHG 削減ロードマップを図1に示します。当社は基準年の2013年度には年間111万t（CO₂換算）のGHGを排出しておりましたが、事業ポートフォリオの再構築、省エネルギー活動の推進により2019年度までに23%の削減を達成しています。今後それらを検討継続しつつ、図1に示すとおり当社の特徴／強みであるエネルギー事業、メタノール・アンモニア事業、研究開発力を生かし、また他事業との協働も進め、移行エネルギー・再生可能エネルギーの導入、カーボンフリーエネルギーシステム・CCUS※²の実装等を具体的な削減アイテムとし、2030年には最低目標である36%を削減、そして2050年カーボンニュートラル達成に向けまい進してまいります。

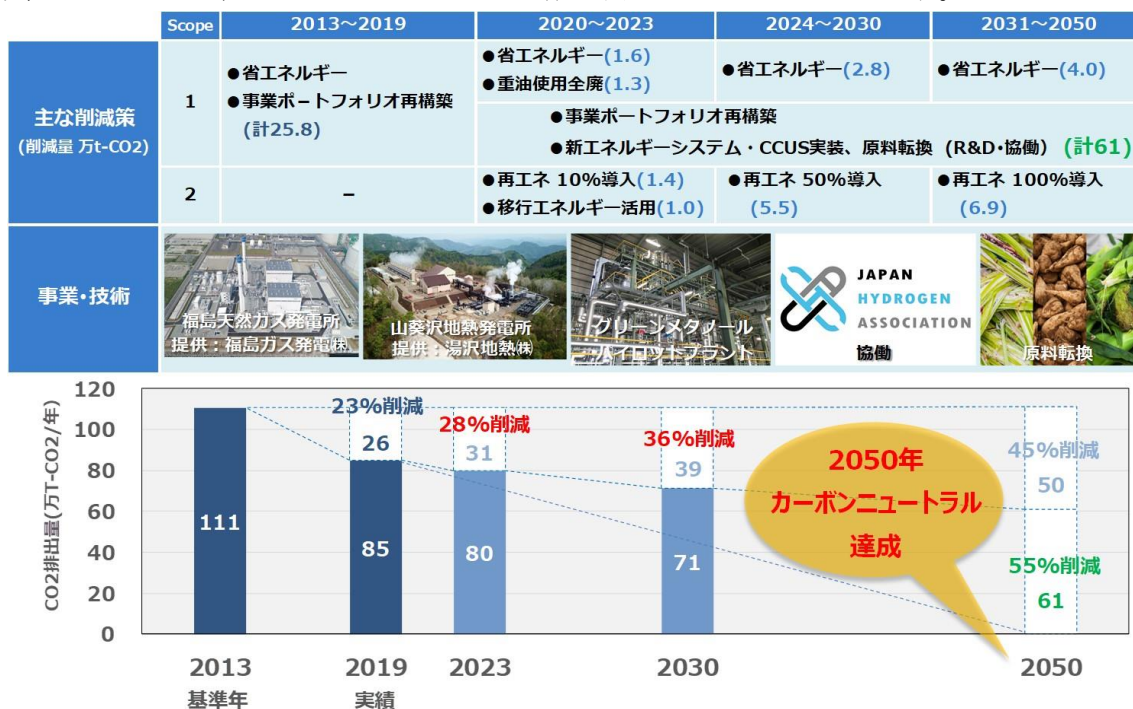
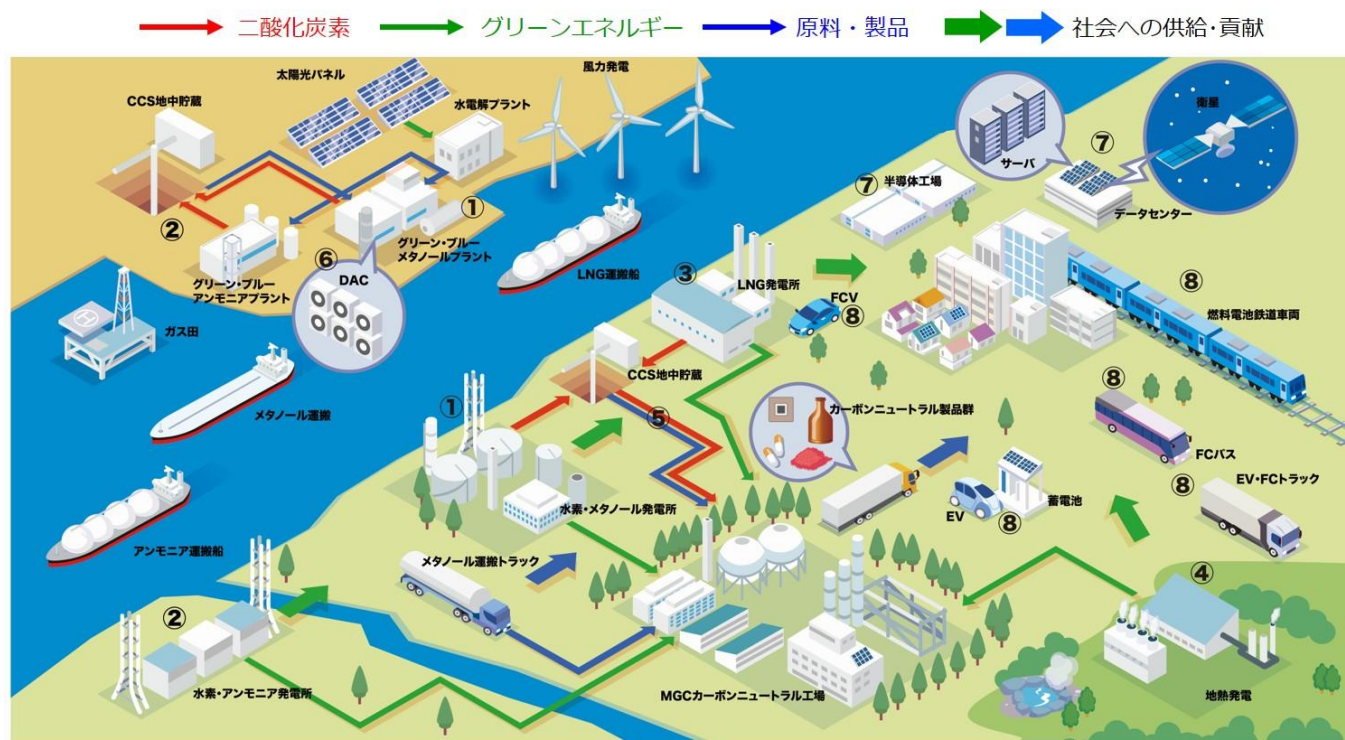


図1 三菱ガス化学 カーボンニュートラル達成ロードマップ

また、当社が描く 2050 年カーボンニュートラルの世界を図 2 に示します。当社が構想するクリーンエネルギーシステムや当社カーボンニュートラル工場で製造されたカーボンニュートラル製品、環境貢献製品群を社会に提供していくことで、「地球規模での気候変動課題の解決」という社会と分かち合える価値を創造してまいります。



カーボンニュートラル エネルギーシステム、CO2利用

- ① メタノール-エネルギーシステム
- ② アンモニア エネルギーシステム
- ③ LNG火力発電所+CCS
- ④ 地熱発電所
- ⑤ 例) CO2からポリカーボネート原料製造(CCUS)
- ⑥ 特殊アミン類(DAC吸着剤)

カーボンニュートラル貢献製品

- ⑦ BT材、エレクトロニクスケミカル(エネルギー制御システム)
- ⑧ 全固体電池(EV)、燃料電池(FCV)
- ポリカーボネート、ポリアセタール(車体軽量化)
- 光学材料(自動運転センシングデバイスによる運転効率化)

図2 三菱ガス化学が描く 2050年カーボンニュートラルの世界

※1 排出削減長期目標: 当社単体の Scope1+2、Scope1は自社が直接排出した GHG 排出量、Scope2 は他社から購入したエネルギー(主に電力)の使用に伴う間接的 GHG 排出量を表す国際的基準

※2 CCUS(Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage): 排出した二酸化炭素を回収・貯留する技術、および貯留した二酸化炭素を化学品原料等に利用する技術

以上

本件に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社 総務人事部広報グループ
TEL : 03-3283-5040 <https://www.mgc.co.jp>

